

1	事業名称	冬の高遠フェスティバル				
2	新規・継続	継続	8年目			
3	趣旨	国立信州高遠青少年自然の家を家族やグループ等に広く開放し、冬の様々な体験活動や交流を通して、自然体験活動への興味関心を育てるとともに、当自然の家を仲間との交流の場として周知することを図る。				
4	期日・期間	回数	開始日	～	終了日	期間
			2月6日(土)	～	2月7日(日)	1泊2日
5	実施場所	国立信州高遠青少年自然の家				
6	募集人数	400人(宿泊参加 300人、日帰り参加 100人)				
7	共催・協力・後援	伊那市、伊那市教育委員会				
8	参加者人数	255人(宿泊参加 219人、日帰り参加 36人)				
9	参加者類型	未就学児41人、小学生81人、中学生2人、社会人95人				
10	参加者地域	長野県52組、山梨県4組、東京都3組、愛知県2組、その他の県4組				
11	参加者分析	・県内、近隣県外の保育・幼稚園、小学校に送付したチラシをみてフェスティバルに申し込んだという参加者が多かった。				
12	アンケート満足度	満足	やや満足	やや不満	不満	
		82%	12%	0%	0%	
13	アンケートの主な記述	<ul style="list-style-type: none"> ・山頂までいけて、多くの山々や町並みが見れて大変気持ちがよかったです。(スノーシュー東尾根 同様意見1) ・初めてのスノーシュー、親子とも楽しかった。(スノーシュー林間 同様意見5) ・待ち時間が長い(そり遊び、ソリ大会 同様意見 5) ・そり大会時に、他の子どもが転ぶのを喜ぶ子どもがおり親も注意しなかったが、ボランティアの学生さんがやんわりと注意していたのはとてもよいことだと思った。 				
14	成果	<p>開催直前に雪を運び入れたことにより、そり遊び等雪を使った活動が滞りなく行えたため、とても楽しかったとの意見が多く、総合的な満足度も高い評価が得られた。今年度から新規プログラムとして行った雪上遊びリンピック及びスノーシュー体験の2コース化も参加者から楽しかったとの意見が多く、次年度以降につなげられるプログラムであることが確認できた。</p> <p>ボランティア、教育参加、教育実習生が31人と大勢集まったため、体験活動やソリ大会の運営がスムーズに行うことができ、参加者からも安心して活動ができたとの意見が多く見られた。</p>				
15	今後の課題	盛りだくさんの体験活動を実施するため、今年度同様に大勢のボランティア等の確保が必要である。今年度のように降雪量が少ない場合の代替案をあらかじめ作成しておく必要がある。				
16	担当者メモ	・二次案内の送付が遅くなってしまった。また、体験活動の内容を併せて周知することによって、予備知識を持って参加していただけたと思う。				

プログラム展開		
日程・時間	プログラム	担当（講師等）
2月6日（土）		
冬の体験活動		
13:00～13:30	・はじめの会	
13:30～15:30	・そり遊び	・牧野 外
	・雪遊び	・小松 外
	・歩くスキー	・小澤 外
	・スノーシュー（東尾根コース）	・久根 外
	・スノーシュー（林間コース）	・藤川 外
	・雪上遊びリンピック	・山崎 外
16:00～17:00	・スノーキャンドル作り&ライトアップ	・山崎 外
19:00～19:30	・スノーキャンドル作り&ライトアップ	・山崎 外
2月7日（日）		
9:00～12:00	・そりすべり大会	・久根 外
	・そり遊び	・鎌田 外
	・歩くスキー、スノーシュー	・緒方 外（用具貸出のみ）
13:30～14:00	・終わりの会・表彰式	



はじめの会



歩くスキー



スノーシュー



雪上遊びリンピック



雪上遊びリンピック



スノーキャンドル作り



そりすべり大会



そりすべり大会



終わりの会・表彰式

（担当 小松 正己）